

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の育成を軸に社会的自立をめざした教育課程の工夫・改善に取り組むとともに、個別最適な学びと協働的・探究的な学びの実現に向けた授業改善を進める。 ②インクルーシブな学校づくりを推進するため、学校行事等を通し、生徒の自己有用感を醸成するとともに共生社会の一員として主体的に行動できる生徒を育てる。	①基礎学力の育成を軸に社会的自立をめざした教育課程の工夫・改善に取り組むとともに、ICTの効果的な活用を含め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、継続的な授業改善を更に進める。 ②年間指導計画や学校行事の見直し、精選を進め、生徒が主体的・意欲的に運営・参加し、より満足度の高い行事の計画・運営を行う。 ②共生への理解を促す取組を推進する。	①基礎学力の育成を軸に「わかる授業」「生徒が主体的に参加できる授業」を工夫・実践し、ICTの有効活用、授業改善を一層推進する。また、指導と評価の一体化を目指し、小单元テストの実施等、効果的な評価方法を検討する。 ①教科横断的な学びの展開、総合的な探究の時間の実施内容の工夫を進め、主体的・対話的で深い学びを通じて基礎学力・発展的学力を育む。 ②生徒会等の活動の活性化を図り、行事運営等において、生徒が主体的に運営できるよう指導を徹底する。 ②特別な配慮を必要とする生徒への支援を通じ、共生への理解を促進する。	①小单元テストや振り返りプリント提出等を定期的の実施し、授業改善に生かしたか。 ①総合的な探究の時間等を通じて、生徒の主体的で協働的な取組を実施できたか。 ②生徒会活動、委員会活動の仕組みを工夫し、生徒一人ひとりが活躍できる場を設定できたか。 ②生徒が主体的に企画・運営し、参加する学校行事が行われ、生徒の参加率が向上したか。 ②個別教育計画作成を含む特別な配慮への取り組みを行ったか。	①小单元テストや振り返りプリント提出等を頻繁に行うことで基礎学力の定着に結び付けることができた。 ①探究活動の推進を目的とし生徒の主体的で協働的な取組を実施の充実に努め、授業改善を図った。 ②生徒会活動の活性化を図り、学校行事及び委員会活動等の生徒主体の取組を推進した。	①生徒一人ひとりの基礎学力や意欲に応じてICTの有効活用を含めた個別最適な指導の構築に向けた取組を促進する必要がある。 ①新校開校に向け、総合学科としての探究活動の充実に向けて、授業改善や評価方法の検討を継続して実施する。 ②生徒主体の行事運営の更なる活性化に向けた組織の見直しや推進方策、活躍の機会拡充に向けた検討を行う必要がある。 ②新校開校に向け、麻生総合高等学校とともに、行事の精選と活性化を両立する必要がある。	①社会においてAIが活用されている。経験しているか、していないかで大きな差があるように思える。AIの体験をぜひ学校でやり、ハードルをひとつ超えさせてほしい。 ①生徒が主体的に活動しており、コミュニケーション力が向上している。グループ活動も嫌がらずに、参加できるようになっている。更に進めていってほしい。 ②10月に文化祭も参観したが生徒たちが自主的に計画し、運営していた様子が見られた。今後も在籍する生徒のニーズや興味関心を確認しながら、生徒が主体的に活動できる後押しを進める必要がある。 ②新校開校に向け、麻生総合高等学校とともに、行事の精選と活性化を両立する必要がある。	①基礎学力の育成を軸に「わかる授業」、「生徒が主体的に参加できる授業」を実践し、基礎学力の定着に結び付けることができた。 ①生徒一人ひとりの基礎学力や意欲に応じてICTの有効活用を含めた個別最適な指導の構築に向けた取組を促進する必要がある。 ②生徒たちが自主的に計画し、運営していた様子が見られた。今後も在籍する生徒のニーズや興味関心を確認しながら、生徒が主体的に活動できる後押しを進める必要がある。 ②新校開校に向け、麻生総合高等学校とともに、行事の精選と活性化を図る。	①授業や評価方法の改善とリンクした補習指導をさらに進める。 ①教員間の連携を図り、AIを含め、より効果的な端末利活用を提案・実施する。 ①基礎学力定着に向け、教科横断的な学びの構築や総合的な探究の時間、学び直しの内容の検討を進める。 ②新校においても生徒主体の行事等の活動を通して社会性を育み、生徒の自己有用感を醸成する。 ②新校開校に向け、麻生総合高等学校とともに、行事の精選と活性化を図る。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒の自己指導能力を高めるとともに、生徒一人ひとりの課題を的確に把握し、外部機関と連携したきめ細かな支援を組織的に進める。 ②部活動や生徒会活動等において生徒の主体的・自発的な活動に向けた支援を継続的に進める。	①保護者との連携を密にし、生徒の状況把握・情報共有を図るとともに、外部機関とも連携した組織的で、きめ細かな支援体制を構築する。 ①積極的な生徒指導を推進し授業マナー遵守等を含めた生徒の自己指導能力を高め、安全安心な学校生活環境を構築する。 ②生徒が主体的・自発的に部活動に取り組むことができるよう、教職員が部活動等に参加できる時間の創出等を工夫し、教職員の支援・指導体制を構築する。	①全職員の共通理解のもと生徒の状況把握に努め、外部機関とも連携した組織的できめ細かな支援体制についてより効果的な方策を示し、実践する。 ①積極的な生徒指導の推進のため、保護者への綿密な連絡を図る。併せて身だしなみ及び授業マナーの遵守等を強化・徹底する。 ②教職員が部活動を指導・支援する時間を確保するため、会議開催頻度の減少や時間の短縮を図る。	①生徒支援の観点から、全職員の共通理解のもと、保護者や外部機関と連携したきめ細かな支援を行うことができたか。 ①授業改善、授業への取組姿勢への支援等、積極的な生徒指導を通じて、授業マナーの遵守及び身だしなみ指導を定着できたか。 ②生徒が主体的・自発的に部活動に取り組む体制ができたか。また、部活動加入率増加等の改善を図ることができたか。	①個々の生徒の状況を教員やSC、SSW、児相等の外部人材とも共有し、的確な保護者連携を行い、個別最適な支援を実践できた。 ①フォローアップ週間や身だしなみ指導、遅刻指導を通じて授業マナーや社会的モラルを醸成した。 ②体育館改修工事の中、外部機関とも連携を図り、部活動場所を確保するなど、生徒の活動を支えた。	①全職員で的確な指導・支援を行うため、生徒支援・教育相談に係る研修等を引き続き行う。 ①特に困難を抱える生徒への支援体制を構築し、より効果的なアプローチを検討する。 ①授業改善を通じて個別最適な学びを実現し、併せて授業マナーの向上をめざす。 ②教職員が部活動に参加する時間を創成し、継続した指導を行えるようより一層、体制を構築する。また、新校開校に向けて検討していく。	①今まで以上に複雑な背景を持つ生徒も多い中、きめ細かな支援を行っている。支援を継続しながら、教員の負担を軽減していく工夫が必要である。 ②困難を抱えた生徒は、社会的も増加傾向にある。困難により学校生活、社会的な経験を積むことができなかった大人も増えている。学校行事や部活動は生徒の自己有用感を醸成できる効果的なものである。より一層、これらの活動を活性化させて主体的に取り組む生徒を増やしてほしい。	①今まで以上に複雑な背景を持つ生徒も多い中、個々の生徒の状況を教員やSC、SSW、児相等の外部人材とも共有し、的確な保護者連携を行い、個別最適な支援を実践できた。 ②学校行事や部活動を通して生徒の自己有用感を醸成できた。引き続き活動形態の検討を進める必要がある。	①生徒への声掛けを行うなど、より良好な関係性を構築しつつ、学びに向かう姿勢を醸成する。 ①引き続き、身だしなみ指導の趣旨を丁寧に伝えながら継続的な指導を行うとともに、遅刻指導等を通じて、社会性を育む。 ②部活動に対する概念を見直し、新入生オリエンテーションの内容を工夫して部活動の意義や効果を伝えるなど、改革を視野に入れた検討を行う。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月21日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの持つ可能性を広げるため、希望や適性を把握し、3年間を通じた探究的な活動を通じて SCC や外部機関と連携した組織的かつ継続的な進路指導・支援の充実を図る。	①生徒一人ひとりが持つ可能性を広げるため、希望や適性を把握し、指導につなげる。また、総合的な探究の時間等における学びの充実を図る。 ①キャリア支援センターが中心となり、様々な人材と積極的に連携を図り、3年間を通じた組織的かつ継続的な進路活動への支援を充実させる。	①総合的な探究の時間や進路行事をとおして、各学年の発達段階に応じたキャリア計画を提示し、生徒一人ひとりの進路に対する意識の涵養を図る。 ①キャリア支援センターを中心に SCC や様々な外部機関とも連携し、全職員の共通理解のもと組織的かつ継続的に進路指導を行うことができる仕組みを構築する。	①生徒の進路や将来に対する就労等の意識の向上を促し、進路決定率の割合を向上させることができたか。 ①SCC や緑法人会等の様々な外部連携機関と協働し、キャリア関連行事等を効果的に実施し、実施後アンケート等でその効果を図ることができたか。	①キャリア支援センター機能の充実を図り、SCC や外部機関と連携し、緑法人会による面接講習会や教職員による探究の時間の実践を通じ、より一層、進路未決定者を減少させた。 ①職業インタビューやかなテク実習等の取組を充実させ、生徒の積極的な参加を促した。	①キャリア関連プログラムの精選や実施内容の抜本的な改編をさらに進め、生徒の自己有用感を醸成し、主体的に進路選択を考えることができる生徒を育てるための方策を構築する。 ①キャリア支援センターを中心に、SCC とともに生徒への積極的なアプローチをさらに進め、自立した社会人となるための意識を醸成する。	①進学先未決定の割合が大きく減った。外部との連携を継続し、キャリア支援センターを中心に、SCC とともに生徒への積極的なアプローチをさらに進めたい。 ・SCC の活躍は他県にも紹介しているが、これは SCC の配置のみならず、教員や外部機関が SCC とどのようにリンクするのが重要である。SCC や外部連携を通じて生徒のキャリア形成への意識醸成を引き続き進めてほしい。	・キャリア支援センター機能の充実を図り、SCC や外部機関と連携し、緑法人会による面接講習会や教職員による探究の時間の実践を通じ、より一層、進路未決定者を減少させた。 ・今後も進路未決定者ゼロに向け、3年間を通じたキャリア教育を推進する。 ・キャリア支援センター機能の効果的な運用を図るため、多岐にわたる本校独自の外部連携等を全職員の理解を深める。	
4	地域等との協働	①地域の豊富な社会資源との連携を深め、地域から信頼される学校づくりを進めるとともに、生徒による主体的な地域貢献活動及び地域への積極的な広報活動の充実を図る。	①本校独自の取組である、緑法人会、NPO 法人パノラマ等、様々な組織や人材との連携を図り、地域に根ざした地域から信頼される学校づくりを進めるとともに、生徒による主体的な地域貢献活動を推進する。 ①本校独自の様々な取組を地域に発信するための広報活動を充実させる。	①横浜市や近隣地域の行事などとの連携を図り、生徒の地域貢献の場を設け、生徒の自己肯定感を育む。 ①NPO 法人パノラマや緑法人会等との連携に加え、近隣自治会や近隣大学等と連携し、生徒への支援体制を充実する。 ①本校が行っている様々な取組が中学生や地域住民等に理解されるよう、ホームページのみならず、様々なメディアを活用した広報戦略を企画・実施する。	①地域との連携による地域貢献活動の実回数が増加したか。 ①地域の豊富な人材等の参画を得て、生徒支援の取組を推進できたか。 ①積極的な広報活動を通じて、学校説明会や文化祭に来場する中学生等の人数が増加したか。	①夏季休業中の学校見学会の実施、文化祭の公開などの機会に、来校する中学生・保護者に田奈高等学校への理解を深めていただくことができた。 ①NPO 法人パノラマや緑法人会等との連携によりびっかりカフェや朝食提供事業等を通じて多くの外部人材との協働による支援を実現できた。 ①学校ホームページの充実に加え、本校の教育活動等の魅力を発信するためInstagramなど様々なメディアを活用した	①地域住民からの本校生徒へ理解が進んでいる状況に鑑み、継続して支援をいただいている団体や小学校との連携に限らず、今後、生徒の活躍の場の発掘等を含め、より積極的に連携先の開拓等を進める必要がある。 ①新校開校に向けて学校ホームページの充実、Instagramなど様々なメディアを活用をさらに進める。	・びっかりカフェ、朝食提供、面接講習会等生徒と関わる機会も増えている。支援の目を持つ大人も増えている。生徒たちへの効果的な支援を共に考えていきたい。地域の教育力を更に活用していただきたい。 ・小学校の挨拶運動、運動会では田奈高生たちに協力していただき感謝している。児童にも保護者にも好印象であり、連携をさらに拡大していきたい。	・NPO 法人パノラマにより「びっかりカフェ」を運営していただき多くの生徒がボランティアの方々との交流を持つことができた。 ・緑法人会により昨年度から実施されている朝食提供事業「♪田奈高校で朝食を♪」は、多くの生徒たちが利用し、多くのスタッフの方々とのコミュニケーションを通じて生活習慣の改善等、有益な取組となった。 ・生徒会生徒による小学校の運動会ボランティアなどを実施し、地域に根付いた活動を実施し、生徒の自己有用感を醸成することができた。	・引き続き本校が行っている様々な取組が中学生や保護者、地域住民等に理解されるよう、様々なメディアを活用した効果的な広報戦略を企画・実施する。 ・緑法人会や NPO 法人パノラマ等と連携し、生徒が主体的に取り組むボランティア活動を始め、生徒の自己有用感を醸成する取組を一層深化させる。 ・PTAと生徒が協働して取り組む生徒支援や多くの保護者が参加できる活動をPTAと共に企画し実施する。
5	学校管理 学校運営	①意欲的に教育活動を実践するための職場づくり及び働き方改革を推進する。 ②麻生総合高校との連携を深め、県立高校改革（第Ⅲ期）に係る業務を全職員体制で進める。	①意欲的に教育活動を実践するための職場づくり及び働き方改革を推進するとともに、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。 ②麻生総合高校との連携を深め、県立高校改革（第Ⅲ期）に向けた準備を全職員体制で進める。	①教職員相互の意思疎通を図り、様々な課題解決に向けた議論を活性化させ、業務の効率化や平準化等を図る。また、その成果を図るための独自アンケートを実施する。 ②県立高校改革に係る校内ワーキンググループを設置し、全職員体制で開校準備に向けた議論や企画・立案等の業務を行う。	①働き方改革を踏まえたグループや学年業務の見直しができたか。 ①職員の年次休暇取得等ワークライフバランスへの満足度が高いか。 ②開校準備に向けたワーキンググループの議論が円滑に行われたか。	①教員数の減少に伴うグループの統合や業務のブラッシュアップや効率化を目指した業務改善等を行った。 ①風通しの良い職場づくりを推進し、職員の計画的な休暇取得を促した。 ②新校設置ワーキンググループを設置し、各グループでの活発な議論を行った。	①教職員一人当たりの業務量増加を避けるため、業務の効率化などに更に積極的に取り組む必要がある。 ②全教職員が当事者意識を持ち、令和8年度の再編統合に向けた様々な取組みにあられるよう、業務の推進方法の再確認が必要である。	・新校になった時に、生徒たちが喜びそうな科目が多い。選択科目が多く、クラスから離れることが増えるが、クリエイティブの面倒見の良さを残す方法を考えてほしい。 ・田奈高校独自の様々なシステムを継承するための教員研修は非常に有効であり、大切にしてほしい。	・教員数の減少に伴うグループの統合や業務のブラッシュアップや効率化を目指した業務改善等を行った。 ・新校設置ワーキンググループを設置し、各グループでの活発な議論を行った。 ・業務のスリム化、効率化、ブラッシュアップについては不斷の努力を続ける。 ・令和8年度の再編統合に向けた議論を継承し、新校設置に向けた様々な取組を効率的に行う。 ・勤務時間内における会議の設定等を工夫し、生徒と対峙する時間や教材研究に充てる時間を創出する。	